2025 年 7 月 1 日
※片岡則夫(kataoka@toshokanshinko.or.jp)
★山﨑勇気(yamazakiyuki@seikyo.ed.jp)

「探究学習・調べる学習ひろば」参加者のコメントから_4

6 月 14 日（土）20：30〜22:00 に実施された「探究学習・調べる学習ひろば」の第 4 回では 34 名が参加、そのうち事後のアンケートに 10 名が回答して下さいました（青文字）。以下抜粋引用するとともに、簡単な回答・コメントを記します（※…片岡 / ★…山﨑）。

アーカイブ配信も始めました。Google アカウントをお持ちの方限定ですが、リンク先の GoogleDrive から視聴&資料が読めます。→(**アーカイブ配信/資料置き場**)

「鉄っちゃん」の探究学習はほっといてもだいたい良いものになる

今晩も楽しく拝聴しました。てっちゃんの件がめちゃくちゃ面白かったです。鉄道の世界は興味深いです。好きが原動力。南先生の言葉、響きました！ ジングル B がいいです。C の不思議さ漂う爽やかさもよかったです。ジングルが流れて、フェードアウトしたところでみなさんの声が乗る〜をイメージしながら拝聴しました。(小中高学校司書)

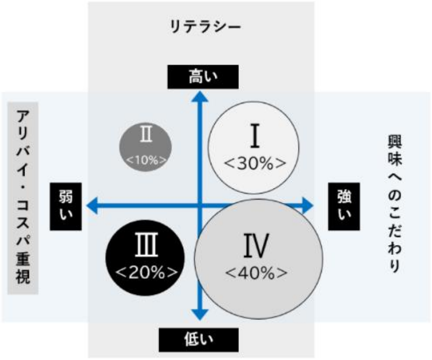
※私の友人に貨物列車の「台車」が好き、という人物がおりました。もう、何が何やら…。小生も国鉄マンの息子なので「鉄分」の含有量はそれなりにあるのですが。

★いくつか「ほっといてもだいたい勝手にいい探究学習になる分野」というのがあるのですが、鉄っちゃんもその一つですね。興味・リテラシーの話でいうと、だいたい第Ⅰ・第Ⅳ象限です。

探究学習の根っこは「学習観」にアリ(そして、市民の図書館利用も)

初めて参加しました。学校現場の様子がわかりとても勉強になりました。図書館員としての目線で見るのと、先生の立場で見るのとでは違って見える部分もあるので、面白いと思いました。「学習観」私も初めて耳にしました。自分の学習観思い出しながら、調べコン取り組んでいきます。ありがとうございました。ジングルは、A　がいいと思います。(公共図書館館長　司書)

※今回、何人かの方から学習観についてコメントいただきました。「学習観」の「観」は「物の見方・考え方」です。「学ぶということを、どう見ているか、考えているが」というわけですね。ふつう学習というものは学校教育が中心に行われます。すると、自ずとそれなりの学習観が身についていきます。その上でちょっと辛口にいうと、学校は子どもにとって、小学校入学時から終始「学ばされる場所」です。つまり「何を学ぶか」について本人の主体性は関与しませんから、「学習とはいつでも学ばされるものだ」、という学習観が内面化（自分の心の中に他者や社会の



興味とリテラシーを軸とした生徒の分類
（授業終了時点の分布）

規準や価値などを取り入れて自分のものにすること）していても不思議ではありません。探究学習はこうした「学ばされ学習観」に揺さぶりをかける教育方法といえるかもしれませんね。というわけで、探究学習・調べる学習は「学習とはいつでも学ばされるものだ。そして、誰かが知っている正解に到達するためのものだ」、という学習観から「学習とは何を、なんのために、どうやって学ぶのかを、いつでも自分で決めるべきものだ（その方が面白いし、楽しいし…）」という学習観への転換の第一歩になるといいな、と思っているのです。

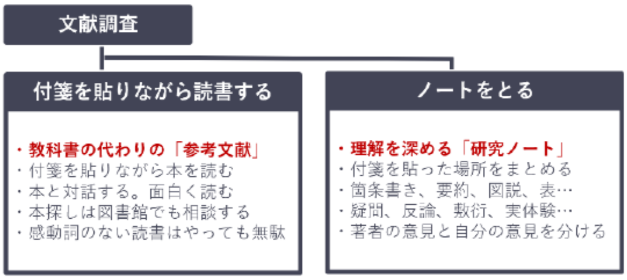
★ご参加ありがとうございました。これまでは学校の司書・先生が多かったので、公共図書館の方からもこうしてご意見を頂けるのは、「ひろば」に新しい風が吹いてきた感じがします。同じく教育を扱いながら、学校教育と生涯教育との間には大きな分断がある気がしています。そして、その分断の背景にあるのが学習観なのだと。「いい点とるために」「いい大学に入るために」という手段化した学習は、必要な部分もある一方で、それが全てでは大学入試以降の学習には繋がらないんですよね。公共図書館の利用もまたしかり。学校で働く身としては、将来の公共図書館利用に繋がる授業ができたらなとも思っています。

興味のある本なら読書のハードルは低い

山﨑先生より、探求のオンラインセミナーをしていただきました。その節はお世話になりました。自由参加だったのですが多くの先生方が参加し、探究への関心の高さを知りました。本校は今、山﨑先生のセミナーを受けて、お恥ずかしい話ですが、ウチの生徒に調べるための本読みができるのだろうかという問題に直面しています。高校生ですが、先生方は本というハードルをクリアできないとあきらめ気味の感があります。ぜひ、アドバイスをお願いします。A に 1 票です。理由→イマドキでないところ（レトロなところ）が良かったです。（私立高校学校司書）

※「ウチの生徒に調べるための本読みが…」とのことですが、そう思う場面ありますよね。商業高校にいたときには「わたし、本読まないひとなんで」と断言されました。そんなもんです。でも、そんな子でも興味のある本の魅力には抗えないものです。

問題になるのは「そんな題材は研究に値しない」という先生側の先入観と、読みたい本に出合えない蔵書です。前者はテキストの「おちゃらけテーマ」の部分を読んでいただいて、後者はまず予算配分、次の周囲の公共図書館を味方につけることである程度解決ができます。比較的即効性のあるのは現代用語の基礎知識かな。今はネットもありますから信頼できるサイトを探してあげるのもレファレンスかもしれませんね。そんなこんなで時間を稼いでおいて、本を手当てするというのはどうでしょう。



★先日のセミナーではありがとうございました。「調べるための本読みができるのか」という点は、それが生徒の読解力のようなものを懸念されているなら、まったく心配されなくていいと思います。本校でもやってることは単純で、①興味がある本を読む(生徒の興味に応じて選書する/生徒の興味をテーマにしていいと伝える)、②集中して読む時間を確保する、③読みながら付箋を貼ったりノートをとる体制をつくる、という、それだけで

す。面白いと思える本に出合った後の生徒の推進力は大きいです。右の画像はうちの中学生に配布している授業プリントからの抜粋です。何も難しいことは言ってないですし、難しい本を読め、とも言ってません。でも、面白いと思える本を探して読もうとは伝えます。そうした授業を半年ばかり続けていると、それなりに難しい本も読めるようになるからです。読解力というのは目の前の文章を正確に理解できる力とも捉えられますが、こうした探究学習の場合は、探究する分野について生徒に研究の動機があり、どれくらい広範な知識(教養ですかね)を持っているか、という点が大きいです。ようは、自分で探究する分野を決めて、面白く本が読めていけば、授業中の読書では全く、何も問題にならないのです。授業プリントを第 4 回のアーカイブフォルダに入れておくので、よかったらご活用下さい。

気になったら付箋を貼るだけ。

付箋を貼った本が増えていく

　こうした「読書観」は探究学習においてかなり重要だろうなと思っています。生徒自身が苦手意識を持っている状況をどうにかしないといけないですが、むしろ授業者側の読書観が問題になります。最近読んだ本のお勧めは、読書猿(2025)『ゼロからの読書教室：苦手な読書が好きになる！』NHK 出版です。大人が読んだ方がいい本です。皆さん、読書を崇高な行為とか、強い(られ)て勉めるものだと思いがちですよね。でも、生徒が面白いと思う本と出合えてないだけ、そうした読書が学校教育で許容されてこなかっただけだと思うのです。学校司書の世界でも良書主義とか、「〇年生はこれくらい読めないと」という能力主義的な読書観が語られがちですが、生徒の読書観にネガティヴな影響もあると思います。僕自身はこうした仕事についていますし、自分自身もそれなりに読書する人間だと思っていますが、読書についてはいつも「たかが読書」と構えてます。教育に携わる人間はその「たかが」の上で、「されど」の読書教育を考える方がいいと思います。「この本読みなさい」ほど子どもにとってしんどい読書はありません。

トンデモ本と探究学習

　お誘いいただき（学校教育のしごとには就いていませんが）参加させていただきました。「全生徒にさせる」をゴールとして、そこから洩れている生徒、洩れそうな生徒へのお三方の対策・テクニック（？）の話をとても興味深く伺いました。とくに、興味とリテラシーのマトリックスを設定してのⅡ～Ⅳ象限の各々分析がよかったです。（おそらくけっこうな割合の生徒が学部より先まで進学し、探究手法が生業に必須であるような子であるからの〈全員探究・全員論文〉であろうと理解していたのですが…いや現代は児童生徒全員が探究なのかしら）探求的に解明し理解を深めることから外れてしまうようなトピックに対しての、片岡先生を筆頭に皆さんのとらえ方がおもしろかったです。「とんでも」とか「引用になじまないような本」などなど。このあとⅢ象限、Ⅳ象限の子らについての特集（？）もするとおっしゃっていたので、↑こういう“論文映えしないようなことにしか興味のない子”への言及があるのでは、とたのしみです。(民間企業図書館総合展運営委員会事務局)

　※「トンデモ」は先回りして「宇宙人つれてきたら研究していいよ～」「空中浮遊してみせてね！」と言っておりますから、あんまりでてきません。話題になった「日航機墜落」「創造説」くらいですか

ね。その一方で「トンデモ」や怪異を信じたり記録に残したりしているのもまた人間ですから、そうした人間を研究することはできると考えています。民俗学や社会学・心理学の研究対象でしょうか。それはそれで面白いとは思いますので、これはこれ「論文映え」するかもしれません。実際「怪異」「ドラゴン」「地獄」は存在する証拠こそありませんが、書き残された文書や絵画から楽しい研究が生まれています。ちなみに我が家では水道水にやさしい言葉や感謝の言葉をかけて、おいしい水を飲んでいます（ウソ）。

★本校も、何度か図書館総合展ではお世話になっております。いつも運営ありがとうございます。学校現場は「授業」が持つ力が(いい意味でも、悪い意味でも)凄く大きいので、色んな取り組みができます。未来の図書館ユーザー育成に向けて、こちらも頑張ります。「トンデモ」本なんかは、公共に勤めてた身からするとまぁそういう本もあるよねという感覚なのですが(全国 SLA あたりも残念ながら、推薦図書にその手の資料が入っちゃってますし)、こと「研究」「論文」を学習に設定している以上、信頼できる資料かどうかそれなりに求めます。ただ、生徒も妙にそのトンデモ論にこだわりがあったりして。そういう時は、「ディベートや論破じゃないから、どっちかの意見に肩入れせずに、二つの論の歴史的経緯を掘ったらいいね」みたいな助言はしますね。いずれ 30 分枠で「トンデモ・疑似科学を扱いたい生徒の対応」みたいなのやっても面白いですね。

探究学習は生徒の「学習観」が変わるきっかけ

今回も夜遅くまで貴重な配信をありがとうございました。清教学園の生徒は「特色ある学び」に総合学習（探究活動）があることを理解したうえで入学してくるのだと思っていました。なので今回の解説の図でいうところの第３象限に属する生徒が２０～４０％、中には未完成・未提出の生徒もいることが驚きでした。想像していた以上に総合学習が大変だったということなのでしょうか。今回のお話を伺っていて素直に感じたことを書いただけの感想ですいません。前回・今回とテーマにかかわる書架の写真を公開していただけたのは選書のために大変参考になりました。次回も楽しみにしています。(高等学校（県立）学校司書)

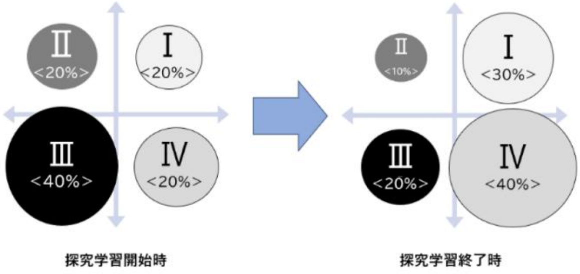
※経験によれば清教学園に限らずどんな学校（母集団）でも、第 3 象限の生徒はいて、拙著「情報大航海術」にもそういった生徒の記録が載っています。「だから安心して」というわけではないのですが、まあ題材が決まらない子がいてもそれは日常的な風景だと思っていただければ。清教では 2 学期に提出ですが、1 学期の様子をみていると「こんなんでほんとに論文まで行き着くのかな」と不安に毎年なりますが、ちゃんと多数の生徒は帳尻を合わせてくるものです。それまでは。生徒と生徒の興味に見合う本とがどれだけ出会えるかが大事で、題材が決まらないことを叱ったり嘆いたりしてもあまり効果はないものです。

書架写真よかったです。これから毎回出してくれるでしょう（ほんとかな？）。蔵書こそ財産で、お金をかけただけ子どもと本が幸せにであう確率が高まるのですから、どんどん買いましょう（と、管理職に言いましょう）。と、ここまで書いて「管理職を探究学習実現に向けて説得する決まり文句集」なんてあってもいいとおもいました。

★「中学受験は親の意志」という面は実際あって、本校入学生徒の多くが学校の特色をわかって選んでいる、というわけでもないんですね。むしろ、小学校 2・3 年生から塾に通い中学受験を目指してき

た多くの生徒にとって、「なんでもテーマにしていいよ」なんて授業は『反則』だという面もあります。「これまで言われたことやってたら成績伸びたし、怒られなかったじゃないか」と。そうした生徒層にとっては、テーマが自由の探究学習も、読みたい本を自分で決める図書館も、辛い授業だという生徒が出て来るんですね。

それでも、第３象限の生徒がだんだん減って、第４象限、或いは第１象限に変わっていくのもまた、この授業の特徴だと思います。自分が面白いと思える世界を、授業や図書館利用を通じて見つけていくわけです。ただ、配信でも少し触れたのですが、こうした探究学習の「テーマの決まらなさ」というのは、子どもに限った話ではないと思うんです。大人だって、自分がやりたいことってなんだろう、自分ってどんな人間なんだろうと悩む。忙しく、会社のために、上司に言われた通りに働けば(第２象限)確かに人生は進むけど、それが終わったあとのミッドライフクライシスだってあるわけです。そうしたときに、図書館行くと面白いことがあるよ、という機会を提供できたら素敵ですよね。



ほんとにやりたいテーマ / グループ探究の困難 / 市販されないパンフ等の文献活用

(感想)今回もありがとうございました。こちらも聴き方がこなれてきたのか、かしこまった研修というより、場所は違えど座談会に参加しているような、ゆるやかな気持ちでお話聞けるようになってきました。第４回目では、長期欠席者を除いても、なかなか前向きになれない生徒が毎年一定数は出てくることも包み隠さずお話頂き、「なんでだろうね？･･･どうしたもんかな？」と、向き合えばいいこと、また、職員が粘り強く関わり続けることで、表のⅣまで移行していく生徒もいる話に励まされました。校内担当とも、ゆるやかに対策をどうするか考えていけたらと思います。第３回目のテーマについて、棚の共有もありがとうございます！幅広い興味関心に応える、新陳代謝が良いことが伝わってくる棚で、とても参考になります。交通の考察についても面白かったです。本校は、電車通の子はいますが、飛行機を選ぶ生徒はコロナ禍前後でも、全く出てきていないので、生活圏内で見聞きすることにも関係しているのかな、と感じています。(この辺、個人でなくグループで探究活動が設定されていることが関係しているかもかもしれません)

(質問と要望)学習観というキーワードが出たあたり、ちょうど集中して聞けなくなってしまった場面だったので、もう少し掘り下げてもらえる場面があると嬉しいです。(アーカイブ聞けば済む話なら大丈夫です)

自動車の話の中で、資料を集めるのが難しい･･･ということでしたが、例えば企業のパンフレット、自治体の広報物、展覧会カタログなど、市販されていない(または ISBN がつかない)ものを収集されたりすることはあるのでしょうか？使えると感じたものがあれば、参考にしたいです。

ジングル、A(1 番目)か C(3 番目)かな･･･と思いました！みんなの熱量がひろばに集まってくる感じを受けました。音楽データどのように制作されたのか、ぜひ教えてほしいです！(県立高等学校学校司書)

※題材が決まらない生徒はずっと謎のままで、それはそれ、「今年もでてきたねー」と、楽しみではないですが、興味を持ってかかわっています。そうした子と話すときはなるべくこちらが言いたいことをいうよりも、言葉が出てくる様子をしっかり見ているようにしたいなと、思います。何がヒントになるかわかりませんので。ちょうど昨日海老名の図書館で子ども調べる講座をした小学生の中にそんな子がいて、はじめは「縄文時代がなぜ長く続いたのかを知りたい」と殊勝な感じで話していたのです。ところが、本を渡すとまったく元気がないんですね。そこで横にしゃがんで話を聞いていると小さな声で「野球がいい…」というのですね。いろいろ聞いてピッチングの本を渡したら、最後は元気になって画用紙をたくさん持ち帰ってくれました。なんで縄文時代なんてことを言いだしたのかわかりませんが、「これは違うな」という気持ちは態度にはっきりでるのでわかりやすいです。

車資料について。確かにパンフ需要がありそうですね。個人で集めることはあったかもしれませんが、図書館がコレクションするところまでは手が回らないような。そうしたいわゆるファイル資料は以前個人的には作っていたのですが…。同様に、役所のクールジャパンの報告書なども使い勝手がいいので製本して蔵書にしたかったのですがなかなか実現できませんね。ジングル A が人気ですね～('◇')ゞ

★グループの探究学習は、生徒の興味によるテーマ設定を阻みがちだと思います。過去に実施した授業実践調査でそうした結果が表れました。グループ内の言い出しっぺが、課題作成のイニシアチブをとらないといけなくなるんですね。基本的に、学校のグループ課題ではフリーライダー問題がありますが、そんな状況や、しかも自分がやりたいテーマを他の生徒に伝えるなんて、中々言い出せないですよね。結果として、最大公約数的な(そして興味も面白味も無い)テーマが出てきたりします。グループ内の心理的安全性をどう確保するか、というかそもそもグループで探究学習をやることにどのような意義があるか、先生はもっと考えた方が良いですよね。「学習観」についてはぜひアーカイブでどうぞ。探究学習においてはかなり重要なキーワードになると思います。

車のパンフはまさしく。学校図書館として収蔵はしていませんが(きりがないので)、今回例に出した生徒は、自分でディーラーをまわってパンフレットを自宅にアーカイブしていました。カーデザインの変遷研究で大いに活用してましたね。そういうのは自動車博物館とかに行くと収蔵があるかな(閲覧のみですが)。学校図書館の話でいうと、企業の CSR 情報をまとめたパンフレットなどは、企業に請求するとけっこう送ってくれます。特に SDGs 系のテーマだとそうしたものが有効活用できます。企業的にも「こんなに社会貢献してるよ」「学校図書館に納品したよ」とは CSR の一環として言いたいみたいで。まぁ、そうしたものを鵜呑みにせず、分析的に見れる目は必要かもしれませんが。でも、どうだろう。そうした資料はけっこう Web に落ちてるんですよね。それこそ現物として学校図書館がアーカイブすべきものというよりも、Web 検索で対応できそうな気もします。「会社名 IR 情報」とか「会社名 CSR PDF」とかで検索しますね僕は。

「探究」と「研究」の違いを整理する

初めて参加させていただきました。清教学園さんの長年の取り組みの蓄積に驚き、大変勉強になりました。鉄オタの話題など笑いながら共感することも多く、ラジオとして楽しく聴かせていただき、また参加したいと思います。

今回の話題からちょっとそれますが、普段取り組んでいて「探究」と「研究」の違いは何だろうか、と考えています。探究の役割の一つに、大学の研究への橋渡しがあると思うのですが、どこまでアカデ

ミックさに厳密であるべきか、研究の作法をどのレベルまで扱うべきでしょうか。例えば、よく生徒たちはアンケートを取りたいと言いますが、アンケートの取り方、分析結果など、ツッコミを入れたくなることが多々あります。中高の探究と大学の研究について、皆さんはどのようにお考えでしょうか？
急ぎませんので、またいつか話題にしていただけたら嬉しいです。（高校地歴公民科教諭）

※「探究」「研究」の違いですか…。なんか長くなっちゃいそうなので探究の語源だけ以前書いた原稿があるのでリンク張っておきます。それでお茶を濁そうと…
https://book.asahi.com/jinbun/article/14461605
清教の探究は研究の作法をそれなりに用いた学びですが、それは「ミニ調べる学習」でも小学生の調べる学習でもそうかもしれませんね。テキストに「アンケートはやめとき」というページがあります。まあ「やっても無駄」「やってる感の演出」の場合がおおいから、と先回りして読ませています。
★ただの言葉の定義なので、各校で決めればいいとは思うのですが、僕自身は「探究」を生涯学習的なニュアンスとして捉えており、一方で「研究」は学術的なニュアンスかなと整理しています。好きなことを本で調べる、いわゆる「調べる学習」も探究かなと思います。そうした調べる学習に毛が生えたくらいの、本校の論文もやはり探究です。引用手法・フィールドワーク・論文作法を用いた成果物ですが、それは形式の特徴であり研究とは呼べないかも。さらに言えば学校教育を卒業したあとで、例えば公共図書館でずっと何か学んでいる人なんかも探究してるといえると思います。
一方で、先行研究を踏まえて世の中に新しい知見・価値を生みだし提示する、みたいなところまでいくと狭義の「研究」と呼べるのかと思っています。大学の修士課程でやっと「研究」の作法が学べて、上手くいけば「自分の研究」をやれるという感じでしょうか。大学4年生の卒論だって、当該学術分野・社会的な位置づけとしては、大したことは書けないですよね。
アカデミックさへの厳密性の話でいうと、本校の論文作法くらいは中学生くらいからやれるので求めていいんじゃないかなとは思っています。それは「研究」の作法を取り入れた「探究」ですが、先行研究や客観的事実に基づいた成果物は、時間をかけてやったほうがいい。いい加減なアンケートや分析、文献に学ばない姿勢の中学生は本校にもやはりいますが、「それじゃダメだよ」のハードルは、研究ではなく探究でも必要かと思います。いい加減でも「言ったもの勝ち」「プレゼン上手の勝ち」になっちゃうので。この話題、配信前半の30分枠で取り上げたいですね。

清教学園の本棚を生徒が紹介する動画

本棚の写真、ありがとうございました。前回の映画に続き、乗り物・交通の本もあまり所蔵していないため、興味深く拝見しました。勤務先は女子校だからなのか（というと叱られるかもしれませんが）全体的に5類・6類が少なく、蔵書構成のバランスを見直しているところなので、参考になりました。（私立高校学校司書）

※今回写真あげてもらってよかったです。いつか清教からライブで本棚探検しても楽しいですね。いぜんやった動画がどっかにあると思うんですが、山崎さんリンクはれますか？　5・6の蔵書多いですよ。それは生徒の研究がおおいからです。5の家政は男女とも需要がありますね。

★動画ありますよ。何年か前に図書館総合展でライブ配信したものです。本校の本棚を生徒が紹介してくれています。ちょっと画質も音質もイマイチですけど…。機会があればぜひ直接お越しください。見学はいつでもオッケーです。

・https://youtu.be/KBOaWzT_5FM
・https://youtu.be/o7YpFYn0qYY

公共図書館と探究学習

ラジオ感覚で聞かせていただきました。調べる学習コンクールの取り組みを始める時に、スタッフの研修として、３年前の指定管理の初年度には中村伸子先生に来ていただいて、テーマ決めの参考になるブックトークを実演していただき、それまでブックトークは読み物を主に行っていたため、図鑑などを使ったブックトークが新鮮でスタッフにはとても反応がよかったです。初めて取り組むこどもたちが調べるテーマを決めるのは、大変なことなので、スタッフが声掛けしながらいろいろ広げてあげながら進めるのを楽しんでできるように、理解を深めてほしいなと思います。次も楽しみにしています。曲は、A が好きかなぁ。(公共図書館統括)

※「図鑑をもっと子どもたちに！」と常々考えてます。まず禁帯出というのが不満です。子どもには大きな図鑑をよいしょと背負って帰ってもらい、図鑑の世界を知ってもらいたいと。ちょっとご家庭では手が出ない素晴らしい図鑑もあるので（たとえばDM社とか）、借りて家族で楽しんでほしいなと。
★学校図書館にいると調べる学習・探究学習支援が日常的な業務なのですが、公共でもそうしたことがあるんですね。僕は子どもの興味に付き合うのがけっこう楽しいのですが、公共の皆さまはどうでしょうか。子ども相手って楽しいですか。レファレンスがイコール本校での研究支援なので、「どんなことに興味があるの？どんな本が読みたいの？」の声掛けをぜひ、公共でもしてあげて下さい。

鉄っちゃんは生来フィールドワーカー ／ 生成 AI と探究学習

いつもひろばの時間を楽しみにしています。今回もすてきな学びの時間をありがとうございました。小学生の鉄ちゃんも何人かお目にかかっていますが、知識量がものすごくてびっくりします。そして、子どもによって乗り鉄や音鉄など、少しずつ方向性が異なっているのも面白いです。（マニアック過ぎて、ついていけなくて申し訳ない気分にもなるのですが…。）彼らのように、自分の興味を深く掘り下げていく姿勢は、とても素晴らしいなぁといつも思っています。卒業論文のフィールドワークでも鉄ちゃんの本領を発揮されているエピソードを聞いて、思わずフフフと笑ってしまいました。
インスタグラムやスレッズなどを見ていても、チャットＧＰＴなどの生成ＡＩの使い方についての投稿が数多く流れてきます。便利なものだとは思うのですが、なかなかお付き合いの仕方が難しそうだなぁと感じています。探究学習を進める上でＡＩとのお付き合いはどうなさっているのかな？とお聞きしてみたくなりました。(小学校教諭)

※最近読んでいる石黒圭さんの『読み手に届く文章技術』（ちくまプリマー新書 495）でもＡＩの使い方を取り上げていて、推敲に使うように書かれていました。まあ、その程度の使い方かもしれません

ね。先般の回で卒論の要約に使ったというお話もしましたね。文章は自分の訴えなのですから、誰かの訴えを訴えたふりをしたところでなんなん？　ということですね。学習観のところでも少し書きましたが「学習はアリバイをつくるものだ」というしょぼい学習観があるから子こそＡＩを安易につかいそうですね。反対に、自分の思いを訴えたい知ってもらいたならば、そんな沽券にかかわる（プライドが傷つく・値打ちが下がる）ようなことはしないもんではないですか。

★鉄っちゃん、小学生にもいるんですね…笑 乗り鉄やら音鉄やら、細分化された興味の対象を見ていると、まさにそれは探究学習でいうところのテーマ設定や研究の方向性に近く、その点でも鉄分多めの生徒の学習支援はやりやすいです。フィールドワークも面白いですよね。というか、こんな授業に参加するまでもなく、かれらは小学校の頃からフィールドワーカーとしてあちこち行ってきたのだと思います。そうした子どもの前のめりな姿勢が、他の分野でも現れるとよいな、と鉄っちゃんにはいつも学ばされます。

生成 AI は昨年初めて使ってみました。論文約 20000 字を 500 字のアブストラクトにまとめるというものです。書いたものがあればそれなりのものにはなりました。今年は新しい使い方として、フィールドワーク等で取材した録音データを生成 AI に入れて、文字起こしを自動化してみようと思っています。そうした事柄はさっさと楽してしまおうと。

ただ、全体的な方針としては片岡先生のコメントにもある通りです。たぶんうちの論文も、プロンプトを工夫すれば生成 AI で書けます。それを無制限に生徒に開放すれば「学習観」の問題から生徒は安きにながれるでしょうね。平均 12 冊も参考文献を読んで、平均 2 万字も作文して、フィールドワークにも行く課題なんて、そりゃ生徒は早くやっつけたいでしょうから。とくに、今回の配信でとりあげた第Ⅱ・第Ⅲ象限の生徒は。でも、この授業で学んだ生徒の多くが学習過程で、「ただの学校の課題」から「自分にとって大事な研究」へと実感が変わってきました。成果物の出来栄えや能力の高さを求めるなら AI で済みますが、その生徒にしか成し得なかった学習経験は、いまのところ AI ではできないし、むしろ学習観が第Ⅱ・Ⅲ象限から第Ⅰ・Ⅳ象限へ移行する上での障害となると思っています。